

「まちあるき」で城下町新発田の歴史を感じてみませんか

新発田の歴史ある街なみを、自動車ではなくて、歩いてみることで、景色がいつもと違って感じられたり、新しい発見もあったりします。運動を兼ねて、ぜひ、まち歩きをしてみませんか。

ここでは『重要文化財』などや、新発田市で指定しております『歴史的景観形成建造物(右記参照)』の一部についてご紹介いたします。

凡例

- まち歩きルート
- 公園内の歩道
- 水のみち

新発田市歴史的景観形成建造物指定事業

市の良好な景観形成に重要な役割を果たしていると思われる建造物の保存、維持を図るため、新発田市歴史的景観形成建造物として指定し、地域の財産として良好な状態で後世に継承することを目的として、平成29年から実施している事業です。歴史景観エリア内にあり、一定の要件に該当する建造物を対象としています。いくつかの要件があり、それらの要件を満たした建造物について、所有者の方から同意をいただき、景観審議会の意見を聴いたうえで指定をする制度です。現在、8件の建造物が指定を受けており、その一部(マップ①～⑤の建造物)についても掲載しております。

※ 個人住宅については、敷地内に入ることができません。

＜新発田城周辺＞



『新発田城』 大手町6丁目

〔三階櫓〕 一般公開なし

2004年に復元。最上階の屋根の三つの鯨が特徴で、実質的な天守でした。



〔辰巳櫓〕

2004年に復元。層塔型二重二階の櫓で、三階櫓と共に木造復元。



〔旧二の丸隅櫓〕

1830年に再建、その後本丸鉄砲櫓の跡に移築。国指定重要文化財。



〔本丸表門〕

1685年に再建し、同じ位置に現存する櫓門です。国指定重要文化財。



① 『吉原写真館』 大手町2丁目

昭和11年頃建築 木造3階建て 登録有形文化財
当時では珍しい木造3階建てで、外壁をモルタル仕上げとし、1階正面の腰壁のスクラッチタイル貼り(多数の細い溝の模様があるタイル)や水平性を強調した庇・丸窓などの幾何学的な意匠が当時のまま残っています。



② 『高森家住宅』 大手町2丁目

昭和12年頃建築 木造平屋建て 内部は公開していません
入母屋と寄棟の屋根を有し、外壁の下見板と漆喰による造形が道路に面して映えています。木造の蔵も住宅に隣接して現存し、敷地東側の川戸からは、当時の生活の名残が感じられます。



水のみち(寺町・清水谷周辺、新発田川沿い)



(水のみち親水広場)

まちなかを流れる新発田川は、かつては水上交通の水路としての役割をはじめ、住民の生活用水に利用されたり、憩いの場として日常生活に深い関わりを持ち、人々に恩恵を与えてきました。

また、新発田川は、新発田城の築城の際、防御の役割を担うなど、新発田のまちの形成に深く関わりのある川でもあります。まちの骨格の形成や生活に密着した川である新発田川を「水のみち」として位置付け、この新発田川を再生、整備し、人々が集い、交流が生まれる場とすることで、まちなかの再生を図ることとしています。

＜寺町・清水谷周辺＞



③ 『すき焼八木』 中央町3丁目

昭和10年頃建築 木造2階建て 登録有形文化財
正面の漆喰と下見板の外壁、2階の木製ガラス戸などが特徴的で、2階の戸袋の店名看板にも趣を感じます。現在もすき焼店として親しまれています。



④ 『平久呉服店』 御幸町1丁目

昭和12年頃建築 木造2階建て 登録有形文化財
入母屋の屋根を有し、歴史を感じる下見板の外壁や各階の木製ガラス戸が通りから見え、堂々たる雰囲気醸し出している呉服店です。



『清水園』 大栄町7丁目 国指定名勝

1666年新発田藩溝口家下屋敷(清水谷御殿と呼ばれる数寄屋造りの書院)完成後、近江八景を取り入れた池泉回遊式庭園が造られ、庭園には草書体の「水」の字を描く大池泉があり、その周囲に5棟の茶室を配しています。

⑤ 『双子蔵』 大栄町7丁目 内部は公開していません

明治21年頃建築 木造2階建て 登録有形文化財
2つの土蔵を1つの大屋根で覆い、1つの建築物となっている珍しい形態の蔵で、白の漆喰と黒の下見板の美しいコントラストが見所です。現在はピアノ教室となっております。



『足軽長屋』 1842年建築 国指定重要文化財

寄棟の茅葺き屋根を持つ8戸の棟割長屋で、幕末まで4棟あった清水谷長屋のうちの1棟。当時住んでいた下級武士の暮らしぶりを伝える貴重な遺構です。



『蔵春閣』 諏訪町1丁目 明治45年建築、令和5年移築 木造2階建て



東京都の向島、隅田川沿いに建てられた大倉喜八郎の別邸で、当時は政財界の大家や、海外からの賓客をもてなすための迎賓館として使用されていました。令和4年、(公財)大倉文化財団から新発田市に寄贈を受け、その後移築。